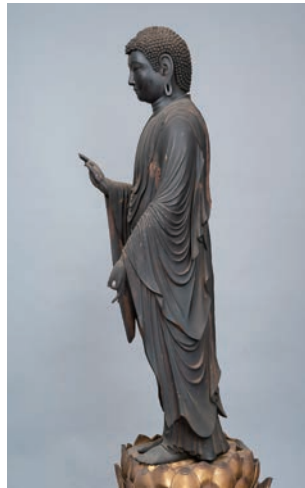


138. 本誓寺阿弥陀如来立像保存修理事業

本誓寺 代表役員 成田 昌弥

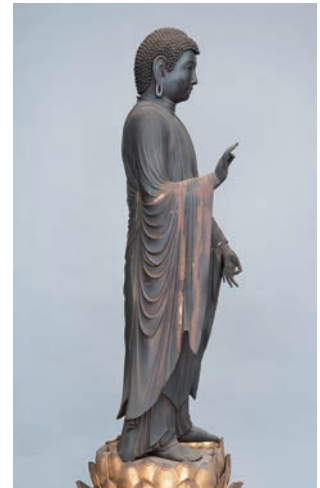
<修復前>



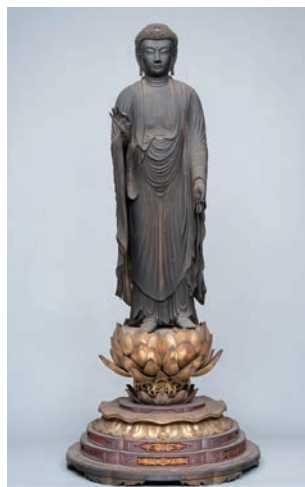
左



正面



右



全図正面



背面



像底

本誓寺阿弥陀如来立像
保存修理事業

本体 80.7cm 台座 39.1cm

神奈川県

解説

像は、神奈川県指定重要文化財に指定されている、足裏に仏足文や木芯に銅線を巻き付けて螺髪等にする特殊な阿弥陀如来像の代表的な作例のひとつです。外面からも瞼の二重、左足を僅かに浮かせて来迎の姿を現している等の特異さが伺えます。所々に切金文様を確認することができ、修理により、金泥塗りや切金がより鮮明に残る姿になると考えられます。さらに、修理時にファイバースコープを挿入し画像を確認したところ、体内に金泥がほどこされ、頭部内には納入物があることが確認されました。体内にさらに納入物がある可能性も高いと見込まれます。修理後には、東京国立博物館にてCT調査されます。

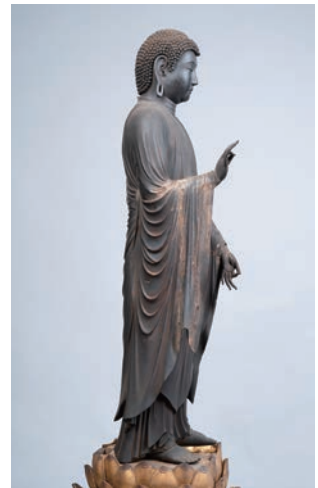
<修復後>



左



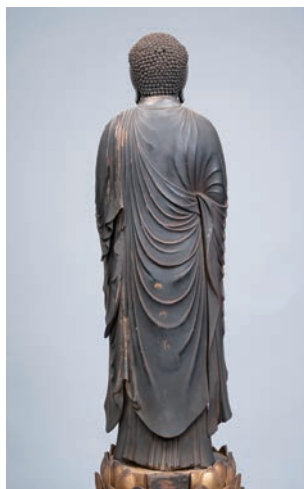
正面



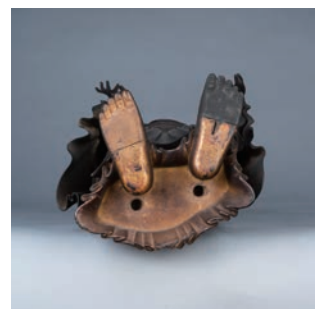
右



全図正面



背面



像底

修復業者

株式会社明古堂

修復内容

- ①表面の汚れを除去。
- ②矧目に施される後補の補修を除去。ルーターでおおよそ取り外したのち、刃物、超音波スケーラーを使用。茶色の層のみを除去。
- ③矧木の露出部位は胡粉下地を施し、補彩。
- ④右袖垂下部後方の欠失部位はヒノキ材で新補し、膠で接合した。
- ⑥修理部位は可逆性の下地で補修し、まわりにあわせて補彩した。

阿弥陀如来立像 一軀

神奈川県小田原市城山二―一二四 本誓寺

修理報告書

株式会社 明古堂

名称

阿弥陀如来立像 木造 一軀

神奈川県小田原市城山二一―二四 本誓寺

法量 (cm)

本体

像高 八〇・七 (二尺六寸六分)

髮際高 七五・八 (二尺五寸)

頭一顎 一四・一 面長 九・二

面幅 八・三 耳張 一・〇

面奥 一・九 胸奥左 一二・九

胸奥右 一二・七 腹奥 一二・六

肘張 二五・三 裾張 一九・二

足先開 八・五

像底柄穴

孔深左 二・九 孔深左 二・二

孔径左 一・四 孔径左 一・二

足柄高 (後補) 三・三

台座 総高 三九・一 最大幅 五一・二

形状

本体 頭髮は旋毛形 (右旋)。肉髻珠、白毫相をあらわす。裙、覆肩衣、衲衣を着ける。覆肩衣は右肩から右腕を覆う。衲衣は左肩から背面を覆い右脇腹から腹前にまわり端を左肩に懸ける。裾は右側で右前に打ち合わせる。両手屈臂し、ともに第一・二指を捻じる。左足をやや上げ踏み出して立つ。

台座 蓮華座。蓮華 (八方六段)、敷茄子、匂 (五方二段)、受座、蕊、反花、框三段 (隅足付)。

品質構造

本体 針葉樹。割矧ぎ造り (または寄木造り)。金泥塗り・切金・像内漆箔。玉眼。

頭体幹部は両耳後ろを通る線で前後に割矧ぎ (または前後二材矧ぎ)、体部を

内割りし頭部を割首のうえ玉眼を嵌入、衲衣下端で両脚部を割矧ぐ (または別材)。頸部の内割りには割り残し頭体を貫通しない。左右体側部は各別材とし、左袖垂下部の内側および右袖垂下部は各別材 (または割矧ぎ)、右肘以下 (袖垂下部外側を含む) に別材を矧ぎ、右袖内側に別材 (または右肘より割矧ぎ) を矧ぎ、左右手首を挿込み矧ぎとする。左肩背部に懸ける衲衣の垂下部は別材を矧ぐ。左右足首先を矧ぎ、裾底 (足首後方) の円形孔二本へ柄 (上部が丸柄、下部が角柄 (後補)) を挿込み、蓮台へ挿込み自立する。

表面は錆漆、黒漆、白色、丹色、金泥とし、着衣部は切金文様。螺髪は撚金属線巻き貼付ける。後頭部中央の二箇所に光背丸柄を穿ち、外縁に撚金属線を取り付ける。以上はX線画像 (清水眞澄「小田原市本誓寺の阿弥陀如来立像について」『三浦古文化』四八、一九九〇) およびファイバースコープを参考とした。

台座 蓮台は中央に心棒を設置し蓮弁を釘留めし、各段は六方に矧ぎ重ねる。心棒は下框の棧に角柄挿しのうえ立て、蓮肉から受座までの丸柄に挿し込む。

彩色・文様

錆漆、黒漆、鉛白、鉛丹、金泥塗りのうえ、着衣部は切金。

頭髮―不詳。

肉身―金泥塗りのうえ彩色 (上塗りは後補、現状黒変)。

覆肩衣表―八菱入り七宝繫文 (五重) を地文とし、太線および細線、細線二条で区切られた円形蓮華唐草文を散らす。周縁部は蓮華唐草文で、界線は太線および細線、細線二条の順に配し、外縁は細線二条。

覆肩衣裏―麻葉文、外縁部に細線二条、細線一条を内側から順に配す。

衲衣表―条葉は太線および細線一条、細線二条で区切り、蓮華唐草文を施す。田相部は雷文繫ぎ文。

衲衣裏―渦文入り立湧文、外縁部は細線二条。

裾―疋繫ぎ文を地文とし細線二条で区切る。周縁部は蓮華唐草文で、界線は太線および細線、細線二条の順に配し、外縁は細線二条。

足首裏―仏足文を朱色で描く。

保存状態

本体 表面の荘嚴は塵芥など汚れが付着し、汚れは護摩由来の油煙が追加し黒色に変色する。肉身部は当初の表層に黒漆が厚く塗られ、胸部を中心に同

層の浮き上がりおよび剥落が進行する。右臉の左半部は木屎漆で補修される。右手首、左体側部、右肘および袖垂下部、以上の矧目に黒漆のうえに茶色の補修（いずれも後補）を認めた。この補修は矧目の間隙だけでなく、矧目周囲の莊嚴を覆うかたちで粗雑に施されていた。右袖垂下部（覆肩衣）の後方の一部が欠失していた。左袖内側垂下部（衲衣）、左肩に懸ける衲衣の後方部、以上の矧木は亡失する。右手第二から五指先、右袖垂下部の外側前方、左足首先、肉身部表層の黒漆、矧目の補修、以上後補。台座 蓮台を保持する心棒の柄穴は弛み、本体の自立が不安定化していた。心棒拔止めの楔（下框棧の下部に設置）は亡失していた。敷茄子の透かし彫りのうち、左側部が欠失する。心棒および敷茄子は虫喰いによる損傷が進行していた。

修理仕様

一、令和七年度施工分

- ① 表面の汚れを除去した。柔軟な刷毛および、ラテックスゴムを使用した。
- ② 心棒の柄穴を補強し、亡失する心棒の楔を竹で新補した。
- ③ 受座より上方部を独立して保持する補強材を内部へ追加した。
- ④ 虫喰いによる損傷部は糞を除去し、パライドを含浸のうえ人工木材で充填補強した。

- ⑤ 修理部位は可逆性の下地で補修し、まわりにあわせて補彩した。
- ##### 二、令和八年度施工分

- ① 表面の汚れを除去した。柔軟な刷毛および、ラテックスゴムを使用した。
- ② 右手首、左体側部、右肘および袖垂下部、以上の矧目に施される後補の補修を除去した。ルーターでおよそ取り外したのち、刃物、超音波スケーラーを用いた。茶色の層のみを除去した。当初層を痛めないよう慎重に処置し、後補の補修をわずかに残した。
- ③ 矧木の露出部位は胡粉下地を施し、周囲にあわせて補彩した。
- ④ 本体の裾底へ挿し込む木製円柱は経木を膠で貼り、台座の柄穴に薄木を貼り付け、弛みを減少させた。
- ⑤ 右袖垂下部後方の欠失部位はヒノキ材で新補し、膠で接合した。
- ⑥ 修理部位は可逆性の下地で補修し、まわりにあわせて補彩した。

使用材料

「ラテックスゴム」Wall master。
「エタノール」大伸化学株式会社・ネオエタノール P-7。
「木材」木曽産檜。
「膠」一般社団法人天野山文化遺産研究所・牛皮和膠 1。
「胡粉」ナカガワ胡粉絵具株式会社・雪印大極上水飛花胡粉。
「人工木材」セメダイン株式会社・HC-118、ユニシ株式会社・Eセトル。
「パライド」ROHM and HAAS Company Paraloid・B72
「アクリル絵具」Liquitex・ACRYLIC ターナー色彩株式会社・ACRYL GOUACHE。

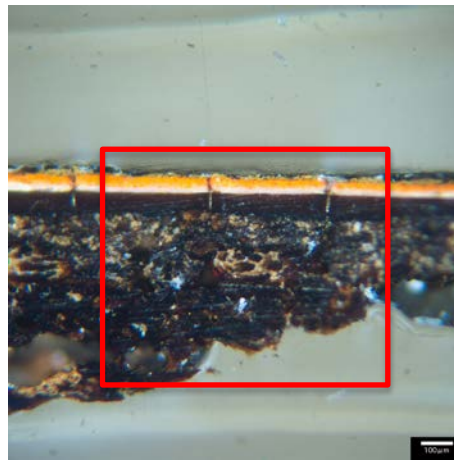
分析

一、クロスセクション

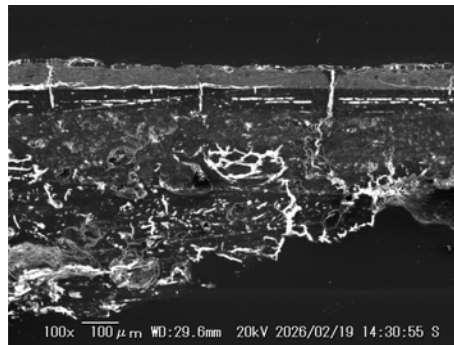
彩色脱落片をクロスセクション分析した。光学顕微鏡により拡大観察し、EPMA (Electron Probe Micro Analyzer: Keyence VE7800, EDAX Genesis) で元素分析を行い、検出された元素をもとに顔料の推定を行った。

①脱落片1 (着衣)

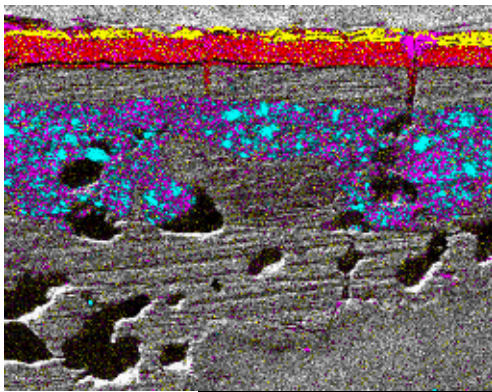
錆漆、黒漆、鉛丹、鉛白、金泥を施す。最上層には塵芥と護摩による油煙が付着する。本サンプルは左腋付近と思われる。鉛白の組成は $[2\text{PbCO}_3 \cdot \text{Pb}(\text{OH})_2]$ 、鉛丹の組成は $[\text{Pb}_3\text{O}_4]$ 。



光学顕微鏡

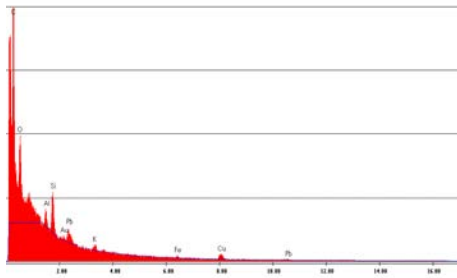


電子顕微鏡画像



元素マッピング

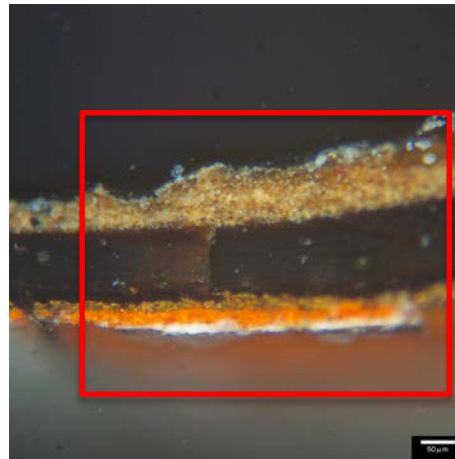
C Si Al Au Pb
分解能: 135.578eV



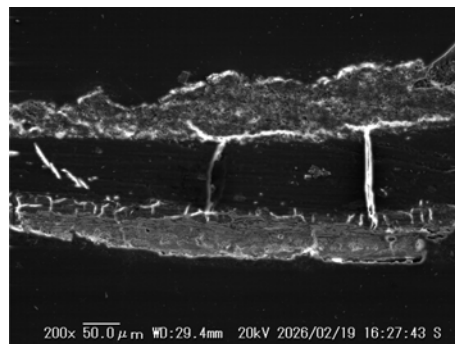
スペクトラム

②脱落片2

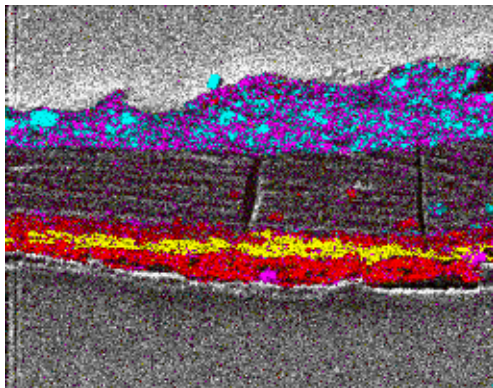
鉛丹、鉛白、金泥を施す。脱落片1にみられる下地下層(錆漆と黒漆)は含まれない。表面の金泥塗りのうえに黒漆と茶色(200 μm 以上)の分厚い上塗り層をみとめ、いずれも後補層で、本修理では茶色の層のみ取り外した。本サンプルは肉身部の矧目と思われる。



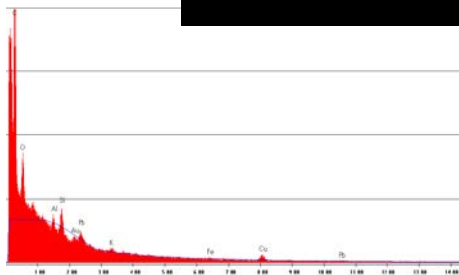
光学顕微鏡



電子顕微鏡画像



元素マッピング



スペクトラム



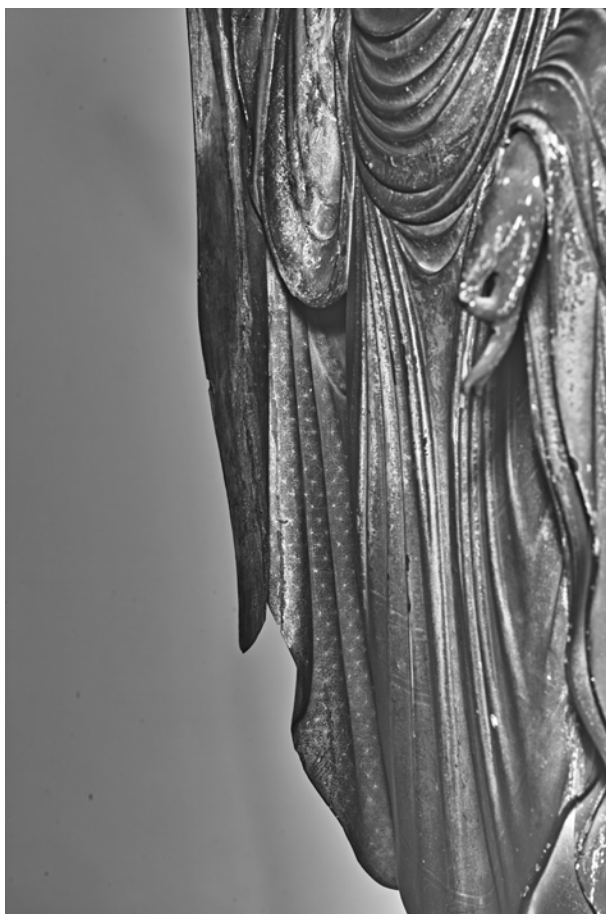
覆肩衣



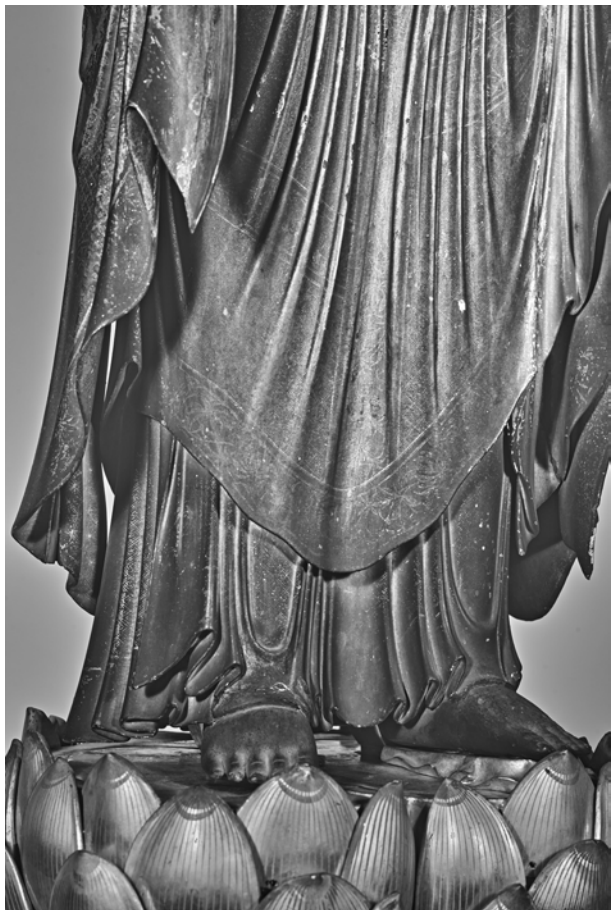
衲衣裏



覆肩衣、裙



覆肩衣裏



裾



衲衣

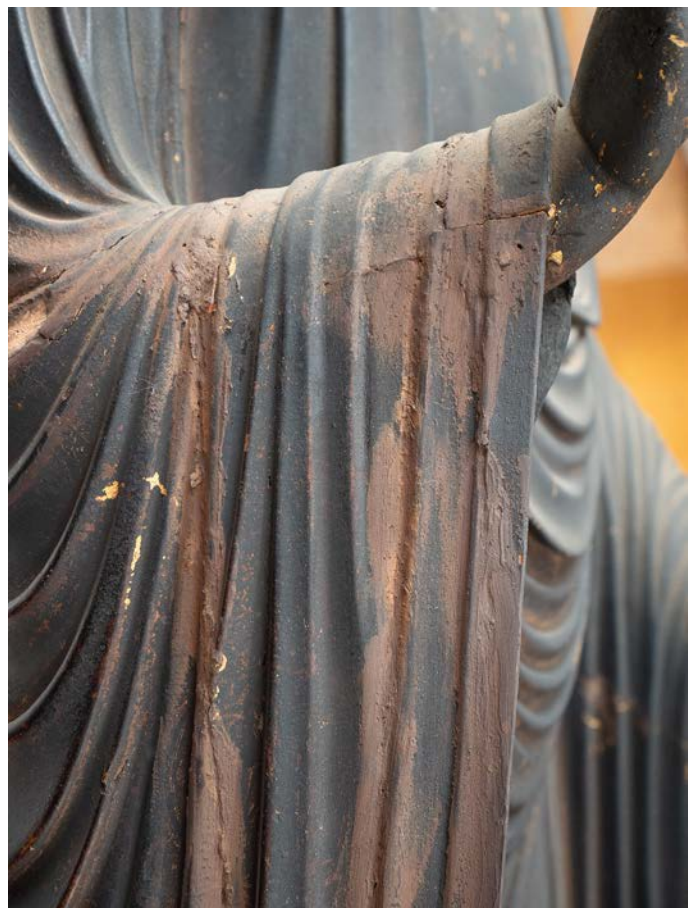


左体側内（肘付近）⇐体部 左体側⇒



頭部内（玉眼裏付近）

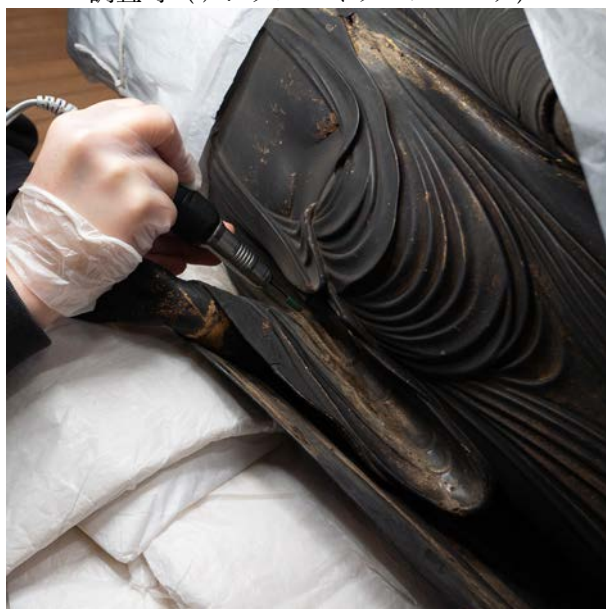
三、ファイバースコープ画像



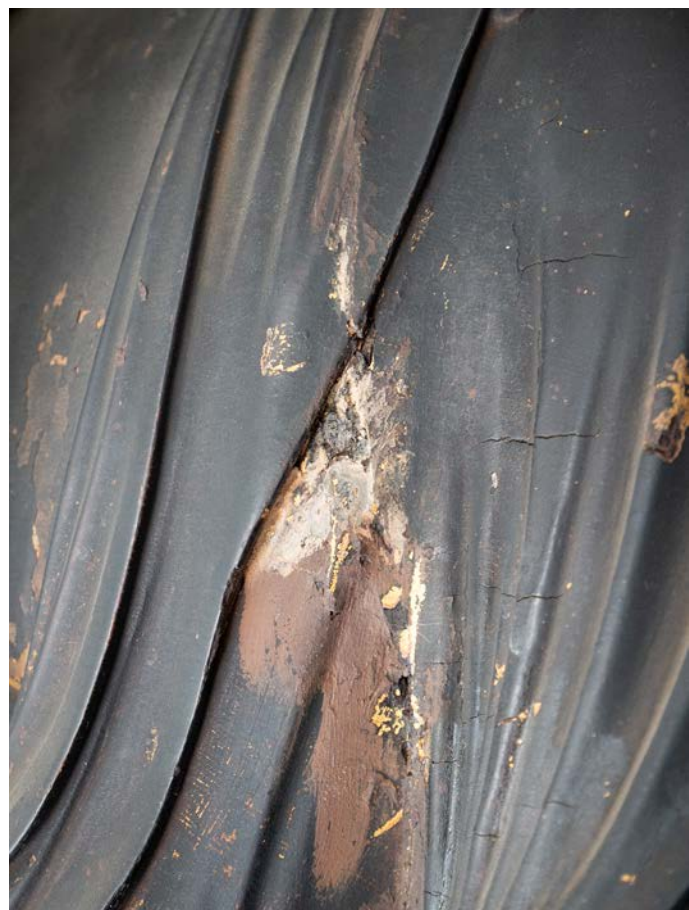
後補の補修（右前膊）



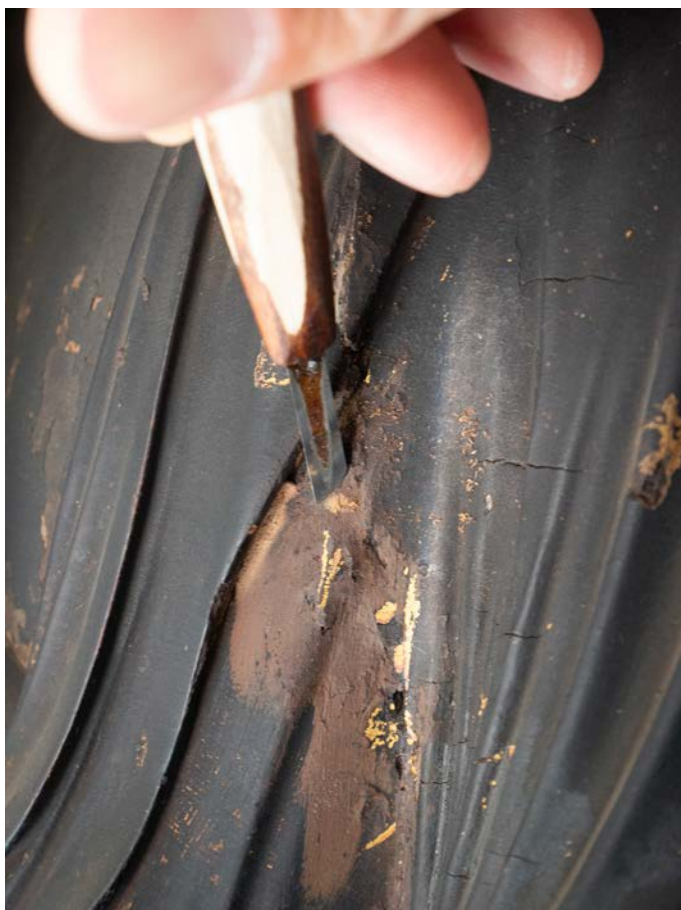
調査時（デジタルマイクロスコープ）



補修の除去（右肘内側）



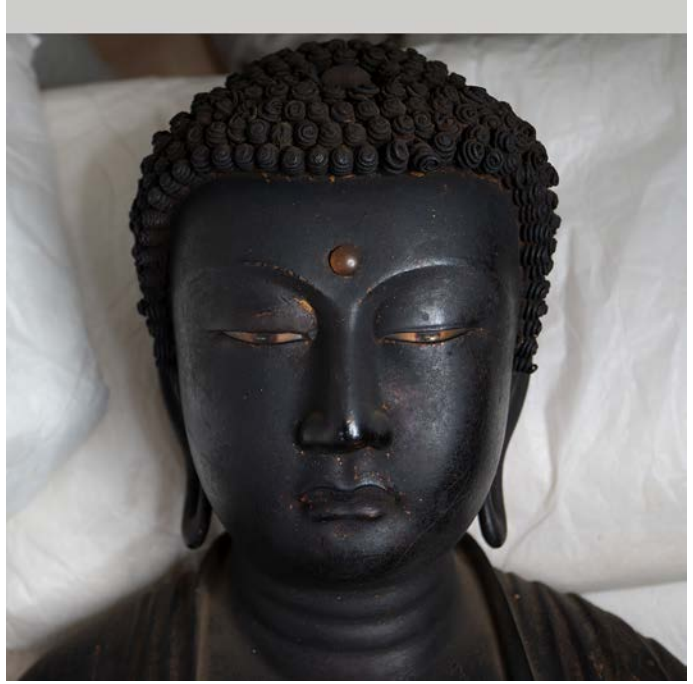
補修の除去中（左腋）



補修の除去（左腋）



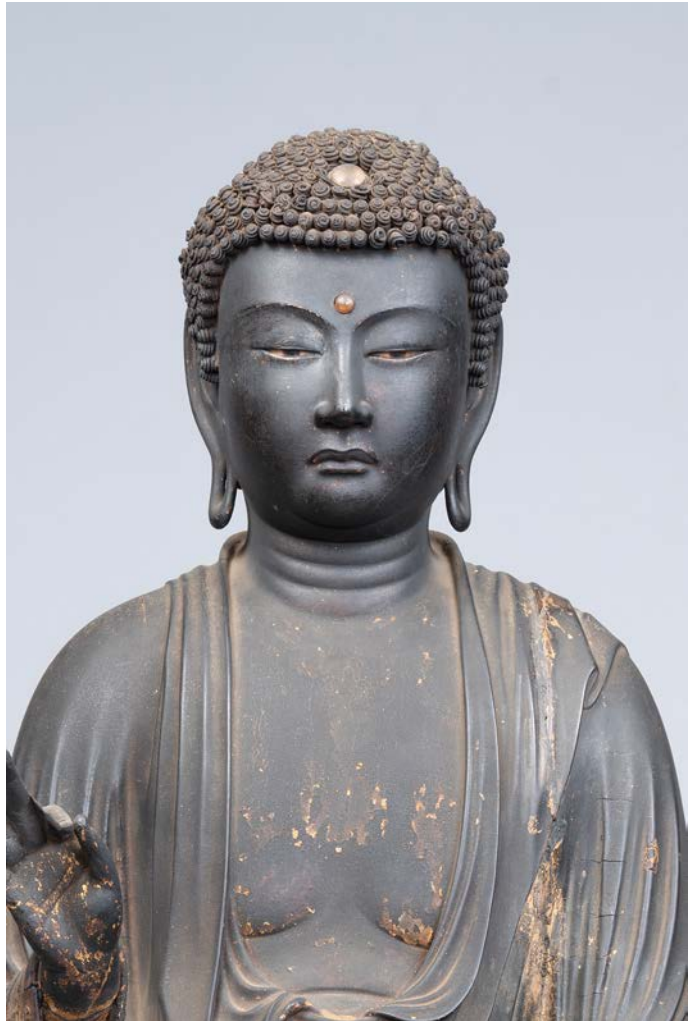
右臉補修の解体



右臉補修（後補）



内部補強（台座）



右臉補修の整形と接合

修理図解

■ 補修・補彩部

■ 補修（後補）の除去部

■ 新補部





保存修理後



保存修理前



保存修理後



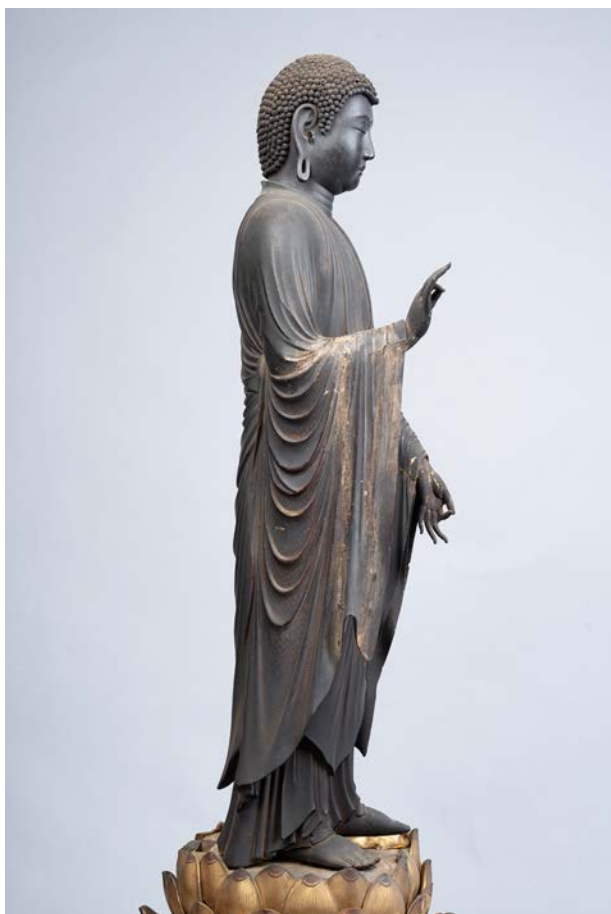
保存修理前



保存修理後



保存修理前



保存修理後



保存修理前



保存修理後



保存修理前



保存修理後



保存修理前

施工者

株式会社明古堂 明珍素也

東京都世田谷区豪徳寺二―九―一二

令和八年三月

